立教大学ジェンダーフォーラム　第 99 回ジェンダーセッション

エッセイという一人称
社会と個人を往還しながら

2026 年 7 月 8 日（水）19:00 ～ 20:30

立教大学 池袋キャンパス 10 号館 X301 教室 および ZOOM ウェビナー

講師：小沼理氏

一九九二年、富山県生まれ。文筆家。著書に『1 日が長いと感じられる日が、時々でもあるといい』（タバブックス）、『共感と距離感の練習』、『悲しい話は今はおしまい』（柏書房）。編著に『みんなどうやって書いてるの？――10 代からの文章レッスン』（河出書房新社）。

私はこれまで、ゲイ男性の立場からエッセイ集や日記集を発表してきました。
エッセイは〈私〉という一人称を用いて現実を書き記す表現です。これは私にとって、個人の感じ方を起点にすることで、異性愛規範と性別二元論がいまだ支配的な日本社会の構造と、その中で一人のマイノリティが生きていることを可視化する手段となっています。
一方で、執筆では自身のマイノリティ性のみならず、マジョリティ性にも直面します。こうした自身の立場性を考慮することは重要でありつつも、そこで期待される振る舞いから逆算するような書き方をすれば、個人の生は切り詰められ、エッセイとして表現する意味は消えてしまいます。
試行錯誤をしながら書くことを続けていますが、最新エッセイ『悲しい話は今はおしまい』（柏書房）の執筆を通じて、マイノリティ／マジョリティという立場性を強調するのではない社会との向き合い方も見えてきました。
本講演では、〈私〉として社会を描くことの可能性と課題などについて、みなさんとともに考えたいと思っています。

左の QR コードまたは下記 URL からお申込みください。
https://s.rikkyo.ac.jp/7x73bco2
申込締切：7 月 6 日（月）
定員：対面 60 名／オンライン 500 名

主催・お問い合わせ：立教大学ジェンダーフォーラム
TEL: 03-3985-2307　E-mail: gender@rikkyo.ac.jp
https://www.rikkyo.ac.jp/research/institute/gender/